

喜界島中世人に認められた変形性顎関節症

Osteoarthritis of the Temporomandibular Joint on a Medieval Kikaijima Islander

竹中 正巳*, 鐘ヶ江 賢二**, 下野 真理子*
Masami Takenaka Kenji Kanegae Mariko Shimono

*鹿児島女子短期大学, **鹿児島国際大学考古学ミュージアム

鹿児島県喜界島長石の辻遺跡から出土した老年女性人骨の顎関節に、変形性関節症が認められた。左右の顎関節のいずれも変形し、右側は下顎頭外側と頬骨弓に新たな関節面が形成されている。本女性は生前、顎関節や咀嚼筋の疼痛、関節(雑)音、開口障害や顎運動異常に苦しんだ可能性が考えられる。

Keywords : osteoarthritis, Nagaishinotsuji site, Kikai island, medieval
キーワード : 変形性顎関節症, 長石の辻遺跡, 喜界島, 中世

1. はじめに

2015年3月、鹿児島県大島郡喜界町島中に所在する長石の辻遺跡の発掘調査で土坑墓1基から老年女性人骨1体が出土した(図1)。この土坑墓には、完形の青磁碗1点が副葬されていた。出土した老年女性人骨の顎関節に変形性関節症が認められた。本稿では、この変形性顎関節症について古病理学的検討を行った結果を報告する。



図1 長石の辻遺跡土坑墓の人骨出土状況

2. 資料および研究の方法

本研究に用いた資料は、鹿児島県喜界島長石の辻遺跡から出土した老年女性人骨である(図2)。本人骨は副葬品である中国龍泉窯産の青磁碗の年代から、13世紀前半に属すると考えられる。本人骨の1つ1つの骨の位置関係は、頸椎など、解剖学的位置関係を保っていない部分があった。このように骨が動いた状態で検出されたのは、亡くなった直後に遺体はこの場所に埋葬されたのだが、その後骨が動かされたためである。埋葬の1～数年後に墓が再度掘られ、白骨化した骨が動かされた可能性が考えられた。研究の方法は肉眼観察によって行った。



図2 長石の辻遺跡土坑墓出土の老年女性人骨

3. 観察結果および考察

長石の辻遺跡から出土した老年女性人骨の左右の顎関節に変形性関節症が認められた(図3・4・5)。左右の下顎頭上面は扁平に変形し、骨表面は粗造になっている(図3)。下顎頭と関節する側頭骨下顎窩側は関節結節の前方に関節面の粗造変形が認められる(図4)。右下顎頭の上面の内側と外側面に新たな関節面が形成され、対応する下顎窩側は関節結節上と頬骨弓内側面に関節面が形成されている。このように、顎関節に明確な変形像が認められることから、変形性顎関節症(顎関節の変形性関節症)と診断される。

顎関節症は顎関節や咀嚼筋の疼痛、関節(雑)音、開口障害ないし顎運動異常を主要症候とする慢性疾患群の総括的診断

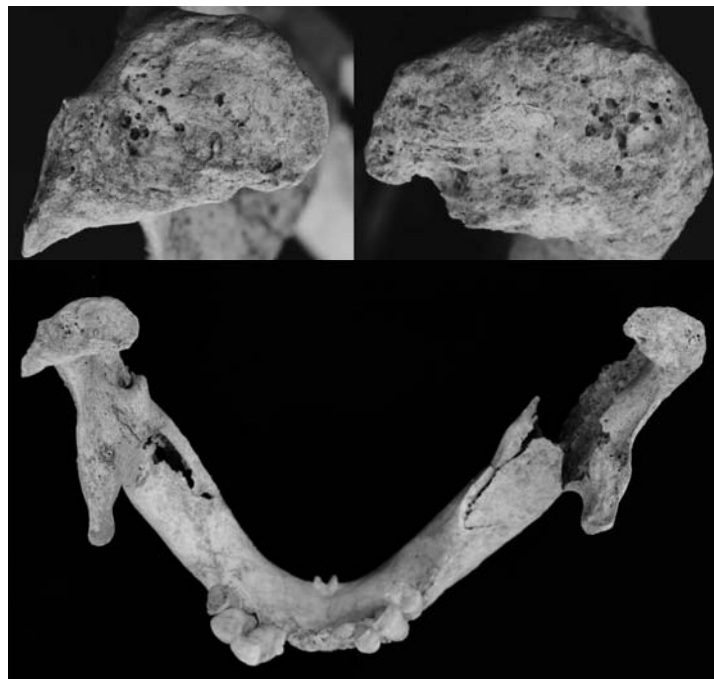


図3 長石の辻遺跡土坑墓出土老年女性人骨の下顎頭

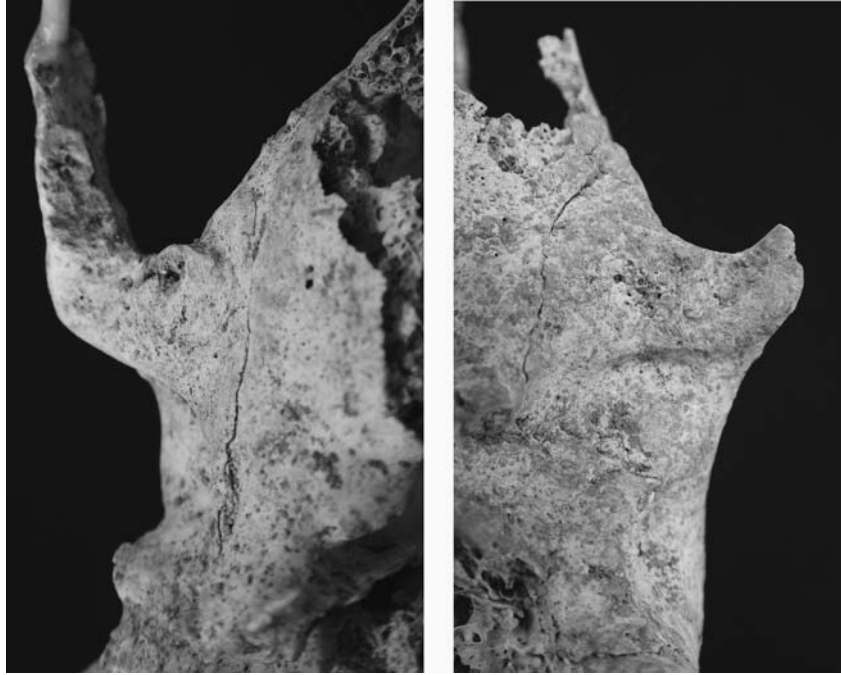


図4 長石の辻遺跡土坑墓出土老年女性人骨の下顎窩



図5 長石の辻遺跡土坑墓出土老年女性人骨の顎関節（上：右 下：左）

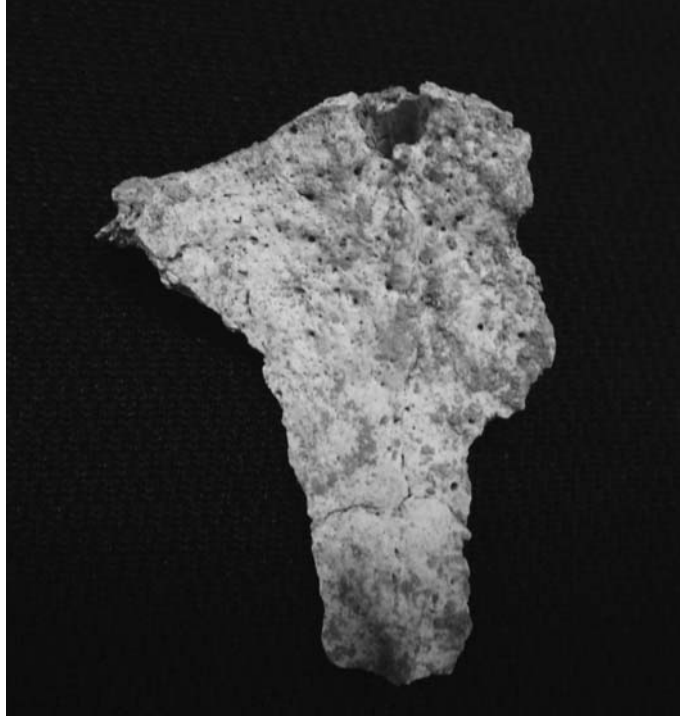


図6 長石の辻遺跡土坑墓出土老年女性人骨の上顎

名であり、その病態には咀嚼筋障害、関節包・靭帯障害、関節円盤障害、変形性関節症などが含まれている（矢谷，2015）。その中で、変形性顎関節症は下顎頭，下顎窩，関節結節の形態変化を伴うものである。本老年女性人骨の上顎に下顎の歯と咬み合う歯はない（図3・6）。加齢に伴い、歯を喪失し、咬合が崩壊した。それが、下顎頭，下顎窩，関節結節の重篤な形態変化につながったと考えられる。咬合の崩壊が顎関節の関節円板の移動の円滑性の低下をもたらし、顎関節の骨構造体の高度な変形に至ったものと思われる。顎関節の運動時の疼痛，関節雑音，顎運動障害が症状として現れていたと推測される。

引用文献

矢谷博文. 新たに改訂された日本顎関節学会による顎関節症の病態分類(2013年)と診断基準. 日本顎関節学会誌 27:76-86. 2015

(2015年12月11日 受理)